Regional Banking Summit

（令和４年２月26日（土））

皆様、こんにちは。内閣府大臣政務官の宗清皇一です。

３週間にわたりお届けしてきました、Regional Banking Summitをご視聴いただき、ありがとうございました。

閉会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

はじめに、
新型コロナウイルスの感染が再び拡大しているなか、感染症対策の最前線に立ち続けておられます医療従事者の方々、
感染拡大防止に努めながら、厳しい経営環境に立ち向かっていらっしゃる事業者の方々のご努力に、改めて感謝申し上げます。

本年度のRegional Banking Summitでは、
「事業者支援」や「金融教育・金融リテラシー」、「SDGｓ・ベンチャー」、
「地域金融機関の組織運営・活性化」と、
地域金融を巡る課題の多様化に合わせて、テーマの裾野を大きく広げました。

リ　ン　サム
そして、Re:ing/Sum ウィークスと称して13以上、
日本経済新聞社主催の「地方創生フォーラム」と合わせると20以上のセッションを、３週間にわたり、お届けしました。

多様な経歴を持つ幅広い分野の有識者の方々に、
地域金融機関の経営トップから若手現場職員までの幅広い層が加わって、
地域の産業・経済を支えるために地域金融機関がどのような役割を果たしていけるか、議論が繰り広げられました。

知恵を出し合い、一歩ずつ前進していこうとする姿に、私自身、明るい希望を感じました。

Regional Banking Summit のセッションを少しだけ振り返りたいと思います。

１点目は、地域金融機関の事業者支援の広がりについてです。
地域金融機関は、「オカネ」だけでなく、「ヒト」や「情報」といった様々な角度から事業者支援を進めています。

この具体的な方策として、
取引先事業への深い理解に基づく「金融仲介機能」の発揮、
事業に関わる「人材」の紹介、
生産性を高める「新しいテクノロジー」の活用などが、取り上げられました。

２点目は、社会的課題に対する地域金融機関の貢献についてです。
超高齢社会、こどもの貧困、金融リテラシーの向上といった社会的課題に対し、地域金融機関がどのような形で、その解決に貢献できるかについて、アイデアが紹介されました。

３点目は、SDGｓやイノベーションと地域金融機関の関わりについてです。

持続可能な社会の実現に向けて、限られた資源の活用に、地域金融機関がどのように関わっていけるか、
また、地域のスタートアップなどの新しいチャレンジを、地域金融機関がどのように支援できるかについて議論されました。

最後に、地域金融機関の組織のあり方です。

持続可能なビジネスモデルの確立に向けて、
地域金融機関の若手職員による組織活性化の取組みや、
コーポレート・ガバナンスの発揮に向けて求められる社外取締役の役割、
地域の重要なステークホルダーである自治体との間で、地域経済のエコシステムを作り上げるための方策などについて、議論が行われました。

また今回は、「バーチャルネットワーキングスペース」というツールを設け、仮想空間内で多くの視聴者同士での意見交換や、
相互コミュニケーションを図っていただきました。

感染症の影響で、実際の会場に集まることは難しいですが、
オンラインでもこうした工夫を講じることで、
同じテーマに関心を持つ人同士が繋がり、交流の輪を広げ、
そこから様々なアイデアや新たな創意工夫が生まれ、成果に繋がっていくことを期待しています。

さて、新型コロナ感染症の影響について、未だ先行きを見通すことは容易ではありません。

私は、内閣府政務官として新型コロナ対策も担当しております。

感染症の拡大防止と危機管理に万全を期すとともに、
傷ついた日本の経済社会を一日も早く立て直すべく尽力しております。

政府の一員として、事業者への支援を含め、国民が豊かに生活できる新しい資本主義の実現に向け、昨年 11 月に決定した経済対策を強力に推し進めていきます。

また、私の地元である東大阪市は「ものづくりのまち」であり、
日々地元企業の方々からお話を聞く中で、
地域金融機関による資金繰り支援、経営改善サポートの大切さを実感しております。

金融庁の政務官として、今後も様々な形で、地域経済の「要」となる地域金融機関の取組みをしっかり後押ししてまいります。

最後となりますが、この度はお忙しい中、
ご協力・ご参加いただきました全ての登壇者の皆様、
共催いただいた日経新聞社をはじめ、本イベントの開催に携わった全ての関係者の方々、
長時間にわたりご覧いただいた視聴者の皆様方に、
あらためて御礼を申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。